



記念式典で挨拶に立つ石川県自動車会議所の要明英三会長。写真左枠は来賓として挨拶する当会議所の内山田竹志会長

石 川県自動車会議所は6月26日、石川県金沢市橋場町の「金城樓」で創立50周年記念式典を開催し、来賓や関係団体関係者など81人が出席した。

式典では、まず物故役員への黙祷の後、要明英二会長（石川トヨペット代表取締役会長）が挨拶に立ち、「石川県自動車会議所は、県下の自動車関係団体が一堂に集結し昭和43年6月に設立以来、ここに創立50周年を迎えることができました。これもひとえに関係ご当局のご指導・ご鞭撻はもとより、関係機関・団体の方々のご理解・ご協力ならびに歴代会長、役員、職員の皆さまのご努力の賜物であります」と感謝の言葉を述べた後、次のように話した。

「50年前では考えられないほど豊かなクルマ社会となる一方で、少子高齢化によるクルマの購買層の減少問題、高齢ドライバーによる交通事故の増加、より一層深刻さを増す人手不足など、解決すべき大きな課題もあります。また、第4次産業革命では、人間の代わりに人工知能AIが機械を自動制御し、無人の自動運転や、先進安全装置を搭載したサポカーといった新しい技術開発が一層進展するなど、自動車産業は100年に一度と言われる変革期を迎えようとしております。石川県自動車会議所は、今後も諸課題に適切に対応し、さらなる『クルマ社会の健全で調和ある発展』を目指して、役職員一同、創立50周年を機により一層努力いたす所存です」

続いて石川県の谷本正憲知事はじめ来賓4人が祝

辞。当会議所の内山田竹志会長も来賓として出席し、「貴会議所は、自動車検査・登録業務の支援をはじめ、交通安全活動や点検整備推進活動などに積極的に取り組んでこられました。以来、半世紀に及ぶ地域社会への貢献は高く評価されるところであります。長きにわたり石川県の業界のリーダーとして自動車産業の振興・発展に力を注いでこられました要明会長はじめ、歴代会長、関係各位による弛みないご努力の賜物と、深く敬意を表するものであります」とこれまでの活動や取り組みを称えた。

また、本年3月に完成し、石川運輸支局の新庁舎とともに9月に正式オープン運びとなっている、石川県自動車会議所も入居する新自動車会館に触れたうえで、「石川県の自動車業界の取りまとめ役としての貴会議所の役割は、今後一段と重要になるものと思います」と期待の意を表明し、「石川県自動車会議所の一層のご発展と、本日ご出席の皆様の益々のご活躍とご健勝を祈念いたします」と祝辞を締めくくった。

新自動車会館は鉄骨2階建て・延べ床面積2,500平方メートルで、建設主体の石川県自動車整備振興会・石川県自動車整備商工組合をはじめ、石川県自動車会議所、石川県バス協会、石川県中古自動車販売協会、石川県自動車車体整備協同組合、自動車事故対策機構石川支所などが入居する。